

## 平成 27 年度新採用薬剤師ステップアップ研修会 開催報告

平成 27 年 7 月 25 (土)、標記研修会を鳥取県中部の倉吉市にある倉吉体育文化会館 [教養室 2] において、10 施設 22 名の新採用薬剤師の参加のもと開催いたしました。

### 1. 目的

本研修会は、鳥取県内の病院・診療所に新採用になった薬剤師が採用後約 3 ヶ月経過したところで、これまでの業務あるいは各施設内の研修で学んだことを振り返り、次のステップに進むための夢や方向性について考えていただくために、病院薬剤師を取り巻く環境や業務の変遷、業務に関するトピックスや実施例を当県でご活躍中の先輩方から御紹介いただくもので、毎年、この時期に開催しています。

また、新人の皆様にとっては、東・中・西部と横に 100km 以上もある県内の他支部の新人と初顔合わせをし、日頃の疑問や問題点について情報交換し、横のつながりを構築できるまたとないチャンスになっています。

なお、本年度は、「医療安全への薬剤師の関わり」および「チーム医療と薬剤師の専門性」をテーマに行いました。

### 2. プログラム

当日は、13 時より受付を開始し、以下のプログラムに沿って行いました。

- 13:30～14:10 基調講演「薬剤師の責務と職能の展開」  
鳥取県病院薬剤師会会長(鳥取大学医学部附属病院 教授・薬剤部長)  
島田 美樹 先生
- 14:10～14:50 教育講演 I 「当院の薬剤業務と医療安全」  
山陰労災病院 薬剤部長 中西 志子 先生
- 14:50～15:05 休憩
- 15:05～15:45 教育講演 II 「チーム医療と薬剤師の専門性について」  
鳥取赤十字病院 薬剤部長 國森 公明 先生
- 15:45～16:00 休憩
- 16:00～17:00 小グループ討論 (SGD) : 受講者を 3 グループに分け、下記テーマで  
グループ 1) ポリファーマシー (多剤処方) が起こるのは?  
グループ 2) 医薬品関連の医療事故が起こるのは?  
グループ 3) 治験や臨床研究で不正が起こるのは?
- 17:00 総括・閉会

### 3. 概略

**基調講演：**冒頭、島田会長は、薬剤師法第 25 条の 2 を示され、従来、「薬剤師は、販売又は授与の目的で調剤したときは、患者又は現にその看護に当たっている者に対し、調剤した薬剤の適正な使用のために必要な情報を提供しなければならない」だったのが、昨年 6 月の改正により、「情報提供」のみではなく、「指導」ということについても義務が付き、「薬剤師は、調剤した薬剤の適正な使用のため、販売又は授与の目的で調剤したときは、患者又は現にその看護に当たっているものに対し、必要な情報を提供し、及び必要な薬学的知見に基づく指導を行わなければならない」と、より責任が重くなったことを述べられました。そして、薬剤の適正な使用のために大学病院で行っている実践例として「個々の患者さんに適した薬物療法の提供」、「NICU や ICU での高度薬学的管理」、「がん化学療法のレジメン管理と安全管理の実施」、「医薬品情報の管理と患者さんや医療従事者への提供」、「院内特殊薬品の調製と臨床評価」、「血中濃度モニタリングに基づいた薬物療法の適正化」、「DMAT 隊員として災害医療への参画」などの業務が高度な知識と技術の裏付けをもって行われていることについて多数の写真を織りまぜて詳細に紹介されたため、参加者全員が先進的な取り組みの数々を熱心に視聴していました。また、島田会長は「今日、患者さんや他の医療従事者から、薬剤師の臨床現場での活躍に多くの期待が寄せられている」、「多職種が関わるチーム医療や地域医療には、薬剤師の『科学者としての力』が必要である」、「周囲の期待に応え、薬剤師としての責任を果たすためには、生涯研鑽を積まなければならない」と、新採用者への熱いエールを送られました。



島田先生による基調講演

**教育講演Ⅰ**：中西先生からは、「当院の薬剤業務と医療安全」と題して、地域の中核病院として広範な薬剤業務を実践している施設の立場から、医療安全への薬剤師の関わり事例について詳細な講演をいただきました。中でも、持参薬の確認や患者情報に基づいた入院中の服薬計画の提案、注射薬等全ての使用薬剤を含めた薬効評価と副作用モニタリングの実施、服薬指導への反映のコツなど「病棟薬剤師業務」に関する具体的な内容を紹介されたところでは、近い将来、参加者自身も行う業務であるためか、参加者全員が真剣な表情で聴講しておられました。また、地域の薬剤師会との連携強化による医療安全への取り組み事例についても紹介いただき、医師の処方意図を理解してもらうための研修会の開催や退院後のシームレスな管理指導のための情報提供方法など院外処方せんの発行元としてのきめ細かな配慮が薬物療法の成功のカギであることを実感させられました。



中西先生御講演

**教育講演Ⅱ**：國森先生には、「チーム医療と薬剤師の専門性について」と題して講演いただきました。國森先生はこれまで、様々な医療チームの中心的存在として活躍してこられただけあり、「チーム医療において求められる薬剤師像」と「薬剤師が求められる専門性」を明示された上で、薬剤師の認定制度および現在、取得可能な認定・専門資格について、それぞれの特徴や取得の難易度、医療現場での珍重度も含めて解りやすく紹介されました。

中でも、「楽に重宝される専門を持つのは！」というお話しでは、目標とする資格の選び方、取得に向けた実績づくりの手法を面白おかしく紹介され、新採用者だけに聴かせるのは惜しい内容と思われました。また、病棟薬剤師業務の魅力について他の医療職との関わり（協働）を中心に解説がなされ、チーム医療に参画すること自体が薬剤師の能力開発にも繋がるのだという実感を持つことが出来ました。

最後には、「入局後5年間をどう過ごすか？」で真に社会の求める薬剤師となるためには、日々の研鑽、特に最初のスタートダッシュが重要であることを説かれ、次の世代をになう

新人薬剤師への期待も込めて、激励いただきました。



國森先生御講演

小グループ討論（SGD）：講演に続いて、参加者を3つの小グループに分け、KJ法と二次元展開法を利用して、グループ1には「ポリファーマシー(多剤処方)が起こるのは?」、グループ2には「医薬品関連の医療事故が起こるのは?」、グループ3には「治験や臨床研究で不正が起こるのは?」のテーマでディスカッション（SGD）してもらい、その結果を発表してもらったところ、グループ1では「医師に意識改革してもらうために薬剤師が処方設計に積極的に関わるべき」など、グループ2では「臨床現場での薬剤師の関わりをもっと増やすべき」など、グループ3では「第三者が常に監視できるようなシステムを取り入れるべき」など新採用者とは思えないような当を得た意見が多く出され、明るい未来を感じさせられました。



KJ法の様子  
(グループ1)



(グループ 2)

(グループ 3)



成果発表の様子

最後は、会長による総括後、全員で集合写真を取って解散しました。  
(当日は、35度を超える気温にも勝る熱いディスカッションお疲れ様でした。)



集合写真

#### 4. 謝辞

御講演いただきました先生方ならびに事務局の皆様ありがとうございました。

(文責：学術・生涯研修委員会委員長 森田俊博)